

# 神戸医療生協支援ニュース

2011年4月 18日 第19号

## ■現地レポート 4/16 最終日 17日神戸に帰ってきました！

### <中井看護師>

今日は午前中が塩釜公民館、午後から多賀城文化センターと一日中避難所回りでした。今日は避難所回りが少なかったもので、避難所行きたい人が多い中、やりがいのある仕事をさせて頂き、とても充実した1日になりました。午後は診察がなかったので、足浴隊に混ぜてもらってひたすら足浴でした。やっぱり足浴のような癒やしの時間が一番喜んで頂けるので、こちらやりがいがあります。診察は近くの医院が開いているので、徐々に需要は減ってきています。むしろ保健師さんのラウンドのような、予防と異常の早期発見が重要になると思います。

これまでの寝床はクリニック再開のため撤収されてしまったので、使えるフロアはまさに避難所の様相を呈しています。

### <中村 事務>

支援最終日の16日も、同じく多賀城文化センターで、診療と廻診、足浴を行いました。愛媛の医学対をしている谷さんが、文化センターの事務局を引き継いでくれることになり、張り切って向かいましたが、他のメンバーもほとんどが入れ替わって文化センター初の方が多かったため、出発や設営からすごくバタバタしてしまいました。

そんな慣れない中でも、皆さんそれぞれ主体的に連携しながら診療や足浴に取り組む姿を見て、こうやって、少しでも被災された方の力になりたいという共通した思いが、たすきリレーされて、支援活動がつながっていったんだなあ実感できました。支援は午前中のみ予定でしたが、対策本部にかけあい、午後から足浴だけでもと、有志で文化センターに向かいました。午前中のメンバーの半分は、帰る時間を午後へ伸ばして、少しでも長く支援をしようという方々だったので、足湯のやり方を知っているのは、午前中にはじめて支援にはいったPtさんだけだったのですが、そこでも主体的な連携が発揮され、避難所のみなさんに喜んでもらうことができました。中村は主に肩もみをさせてもらったんですが、皆さん冷たくて堅い床の上での生活が長いので、すごくガチガチでした。拙い肩もみにも、ああ気持ちいい、幸せやあ～、ありがとうと言ってもらい、とてもやりがいがありました。谷さんの後の事務局を、いたやどの横地さんに引き継ぐ段取りもできたので、安心して帰神できます。

こちらに来ての1日1日はとても密度が濃く、支援のために来たのか、自分のために来たのか、というくらいたくさん事を学ばせてもらえました。それも、送り出してもらった職場の理解と支えがあったからこそだと思います。避難所のみなさん、職場のみなさん、全国の支援に来られていたみなさん、本当にありがとうございました

## ■現地レポート（7陣） 宮本（透析）・横治（いたクリ）

<宮本>本日は、朝7時45分に集合して 長町クリニックの荷物運び出しでした。出発前に、前チームの 穀内さん（内科外来）、中井さん（つばさ）、中村さん（事務）が期間終了で帰られました。本当にご苦労様でした。

到着時に寝所確保・オリエンテーションをしてくださいました。ありがとうございました。長町病院は無事ですが、長町クリニックは、損壊のため閉鎖中です。解体に1億5千万円程かかるそうです。また新築に30億程かかると言われていました。倒壊していないため行政からの補助は期待できないし、地震保険にも入っていなかったそうです。

電気が通っていないため、5階建ての病院からロッカー、机、コンピューター、椅子、書籍、など重量級の荷物を17人の仲間で降ろしました（話をすると みんな意識が高いです）。4トンの箱トラックに5台分を8時間の作業で行いましたが、握力がどんどん落ちていくのを感じました。午後からは、みんな疲れを覆うため、叫び（雄叫び・掛け声）ながら荷物を階段リレーしていました。日中2リットルの水分をとりましたが、シャツを絞ったら滲み出ていた汗が出る程に汗だくで、作業後にみんなで銭湯に行き 裸の付き合いをました（入浴時に体重が減少していました）。



続く

<横治>今日は長町病院付属クリニックの片付け作業をしました。病院の中は今まで見た事のない状態で、あらためて地震の恐さと被害の大きさを目の当たりにしました。机、ロッカー、イスなど大きな物を3階、4階、5階から下ろしてトラックに乗せていく作業です。食の面は各地から物資届き、みなさん次の人の事を考えながら食べています。昨日の朝から電気も復旧し、「冷蔵庫が使えるって、すごくありがたいね」「そうだね保存できるもんね」この会話が昨日はすごく印象的でした。プラスチックのスプーンや発砲スチロールの器も洗って、次の人へ。「どうぞ使って下さい」全く知らない人からの何気ない声かけや優しさが身に染みます。食よりも心が満たされたような気がしました。支えられて生きている。こっちにきて感じる機会が多いです。長町病院の片付け作業は今日で切り上げなので明日からは非難所の方に行く事になるかもしれません。できない事までしようとするんじゃなくて、自分にできる事をしっかりして過ごしていこうと思います。

## ■現地レポート物資支援 板崎専務・堤 (クIト)

4月15日(金) 20時30分発~水500リットル、ワットティツ1400個を積んで出発しました。

・14時間かかり、16日10時30分に、みやぎ県南医療生協に到着。現地の専務理事にあいさつし、支援物資を届けました。備蓄の支援物資はほとんど無く、買えばすぐ隣のスーパーも開店してるのですが、そんな財政状況でも無く、とても喜んで頂きました。医療生協から支援に来ていた高藤さんから、海岸沿いの被災した場所を確認し、



みやぎ県南医療生協 専務理事



一路現地へ向かいました。そこは、さっきの場所とはまさに別世界であり、声も出ない惨状に大きな衝撃を受けました。その後、車を福島医療生協に向け約2時間かかり到着。「わたり病院」等の建物自身はそう大きなダメージは受けていませんでしたが、当日お伺いした時に対応して頂いた組織部の佐藤さんからは「なんと言っても原発問題です。現在20キロ圏内で100名の組合員が避難対象に。これが30キロになると又100名が、今後50キロ・80キロと避難区域が広がる事に大きな不安を感じる」と・・又福島医療生協は、地下水が生きていたため、他の施設の透析患者さんも受け入れ、被災しながらも懸命の支援を続けています。今神戸で取り組んでいる「激励メッセージ」を1日にも早く届けたいと思いました。

その後、新潟の柏崎原発近くで運転も限界(約30時間続けてだったので)。すぐにビジネスホテルを予約し、ひと眠りしました。やっぱり、現地で見ると思いは強くなります。心ひとつに頑張らないと!と感じた物資支援でした。